

作家・タレント
志茂田景樹さん

1940年、静岡生まれ。過激なファッションとは裏腹に、ビュアな人柄で一躍人気に。Twitterでの人生相談・名言は「元気になる」と話題 / 約23万人が感動したツイートが厳選収録した「人って、みな最初は石ころだもの」(ポプラ社刊)が好評。

男が考える、まあいい女とは **その1**

概して、まあいい人の言葉はゆったり聞こえる。目も丸みを帯びている。まあいい=円満ってことなんだよね

社会の第一線に出て、バリバリと働いている女性たちって言葉がストレートだし、自分が思っている以上に強く感じるんですよ。槍で突き刺されたような…。だれだって槍をさされたくないでしょう。とがっていないといけな時代もある。でも今は違うでしょ。とがっていると、しじることが多い気がするよ。だから、まあく=ゆるく。まあいいって円満ってことなんだよね。

女性にとってはネガティブワードになりかねない「まあいい」は、男性にとっては魅力的と同義語のよう。「マルって女性ならではの魅力だと思っんです。男はゴツゴツ角ばっているの。胸にしてもお尻にしても、○を描いていくと女性の体のようになるでしょう。男はそこに優しさや安心感を感じるんです」(干場義雅さん)

も、男がそこに見いだすのは母性だったりする。母性とは、相手を理解し、癒し、守る性質で、赤ちゃんが母親に何を求めているかを理解するために備わったものだという。男にとつての「まあいい女」=母性、これが大前提。

男が考える「まあいい女」
とのデートの情景はこう。
「たとえば食事に行った店がたまたま定休日だったとしても、さっきのお店が閉まってたから、このお店に来られたね」とか、一緒に観た映

ファッションディレクター・
クリエイティブディレクター
干場義雅さん

雑誌『LEON』の創刊に参画、ちよいとワル、プームの火つけ役となる。その後、『OCEANS』では副編集長として活躍。渡伊歴は70回以上 / 人を素敵に変身させるTV番組でもおなじみの、ファッション&クリエイティブディレクター。

男が考える、まあいい女とは **その2**

ニットのVの開き加減、スカートのスリット…。見えそうで見えない。触れられそうで触れられない…。男は、不二子ちゃんのような「おあずけプレイ」が好きなのです

35歳を目処に、少しでいいから「いいもの」を着てほしいですね。たとえば、ウールのニットではなく、上質なカシミアのニットなど。上質なものは、薄手のものが多いんです。なぜなら、薄手にするには、素材自体がよくないと出来ませんし、手間がかかりますから。そういった上質な薄手のカシミアのニットは、着心地がよく、発色もよいので、女性のカラダを美しく、上品に見せてくれます。もっともっと、女性が美しく見える服を着てみてはいかがでしょう？

フォトグラファー
萩庭桂太さん

本誌表紙を始め、数々の雑誌・写真集にて撮影した「いい女」は、約7,600人 / 表紙撮影の現場では、「写真とは…」[「いい女とは…」]、毎回あらゆる理論の「萩庭節」が炸裂。週刊文春WEBにて「萩庭桂太 YOUR EYES ONLY」を連載。

男が考える、まあいい女とは **その3**

男が急に黙ったら、私にトゲがあるって気づいたほうがいい

困ったときにしゃべるのが、女性。困ったときにしゃべらないのが、男性。男がしゃべらないのは、ただ単に答えがないからなんだ。なのに、女性は無理やり答えを求めてくる…。自分にトゲがあるって気づきなさい。必ずトゲがあるって。そう思っていないと、人に意地悪になるから。トゲをなくそうと努力している女性って、すごく魅力的なんだよ。人は、変化するものに惹かれる生き物だから。

画がつまらなかったとしても、この中だつたらどの役やりたい?とか、その中で楽しさを見つけてくれる子は素敵(渡部建さん)

「冬の寒い日に、彼女をタクシーで送って行き、帰ろうとしたら、彼女が首にしていたカシミアのストールをさり気なく巻いてくれた。そのとき、ストールからいい香りがふわっと。優しさと暖かさに包まれて、幸せな気持ちになりました(干場さん)くやしけれど、確かにいい女だなあと納得してしまうシーンだ。相手の女性はタイプが違いそうだけれど、共通するのは思いやりと包容力。上質なものは、人間本来の丸みを出してくれるんです。エルメスや、クルチアーニを毎日着て...とは言わないが、少しでいいから、いいものを着てほしい(干場さん)」

「年齢を気にして恋愛をしているのが見えると、男は冷める。たとえ36だろうが42だろうが、年を忘れて恋愛をしようとしている人は素敵です(渡部さん)」

「年齢にふりまわされているのではなく、年齢による余裕さを感じさせる...『穏やかでポジティブ』(渡部さん)な、まあいい女は、これまた魅力的だ。」

「のらりくらりやってますよ私、みたいな。たとえば、遊ばれた、じゃなくて遊んでやったくらいだね。自分の趣味やひとりの時間のひとつの選択肢として恋愛がある、みたいな(渡部さん)」

「転石背を生ぜず」ということわざ

があるけれど、恋愛に限らず、ひとつのことに執着しすぎる女性もまた、男から見るとまあいいとは言えない。苦むした岩ではなく、さわり心地のいいツルツルの石のような女性って、モテそう!?

「気は長く、心は丸く、腹を立てず、人は大きく、己を小さく」。達磨大師の言葉です。字のままの意味で、僕自身の座右の銘。昔は小料理屋さんに行くと、よく掛け軸が貼ってあったんだけどね。もしかしたら、今の女性たちに必要な言葉なのかもしれない(志茂田景樹さん)

「女の人って意外とごめんなさいって言わないじゃない? たと言ったとしても心からではない。あなたがそうさせたとか言ったり...(萩庭桂太さん)」

「思わずドキッ...。女性の感情はトゲになぞらえられるほど、思った以上に鋭く周りのものすべてに突き刺さる。男性だって女性のトゲの存在とその怖さは知っているし、できればそれは見たくもないと思ってる。でも、まあいい女は「トゲ」をないことにするのはなく、とがった角をまあくする努力をする。上手に感情をコントロールできる女性は「まあいい」と、男性は声をそろえる。」

「女も35歳を過ぎれば、自分の長所も短所もいやになるほど把握しているはず。努力しているその姿、まあいい、なら、明日からできよう!」

「くつろげるって大事だよ。素敵だと思えます。こういう人がそばにいたら、友達だったら、恋人だったらって(志茂田さん)」

「一緒にいる人も、自分も自然にくつろげる、そんな豊かさは言い換えればやっぱり母性。男ってやっぱりマザコン」ではなく、女と男の考える、まあいい女、像は、意外と近いのかもしれない。

大人の女ですから
「まあいい、ぐらいが
ちょうどいいんです!

『35歳、人生これから!』ってわけで...

2013年、男が考える

「まあいい♡、女って、
こういうこと!

芸人(アンジャッシュ)
渡部 建さん

笑いのセンスはもとより、恋愛心理学から読み解く「いい女論」を確立させる。本誌にて映画コラム「シネマdelいい女塾」を連載、11月に発売したDVD「ハンゴマン」では、ゲストともに呑み歩き、涙泥酔、セクシートークまでも披露。

男が考える、まあいい女とは その4

毒舌を吐くなら、ちゃんと
自分も言われる隙をもっていなくちゃ...

毒舌を吐いても許される人=相手にも言わせる空気感がある人。
「言わせしろ、じゃないですけど。自分が言われるのはいやなのに、プライドが高くて自分は言われたくないのに、毒を吐くのはよくない。相当テクニックがいることなんです、毒舌で笑いとるって。TVでは信頼関係があったり、毒を吐くのが優しさだったりするけど、それをそのまま真似しちゃうのは、危険なんです。」